

288. Determinante 1 の Matrix の Kommutator

正田建次郎 (阪大)

Komplexe Zahlen の Element としての Matrix
ヲ取扱ヒマス。

Determinante の 0 ではない として $ABA^{-1}B^{-1}$ の Determinante の 勿論 1 であるが 又逆も 成立シマス、即ち C 乃
Determinante 1 の Matrix として $C = PQQ^{-1}P^{-1}$
としての Matrix Q, P が存在シマス。

証明。この性質は相似変換 (ähnliche Transformation) によらずに C が Jordan, Normalform
で表はされるに居るものとシマス。 C の 対角線 = 現はれる数 a_1, a_2, \dots, a_n とシマス。これ等は C の Eigenwert
である。次は C の n 個の数 a_i の積が 1 であるから = 出来るだけ細
かく分ケマス、簡単のため a_1, \dots, a_i 乃 1 の i 個
とし n 個の数 $\rho_1, \rho_2, \dots, \rho_n$ 乃 1 である = 決定シマス。

$$a_1 \rho_1 = a_2, \quad a_2 \rho_2 = a_3, \quad \dots, \quad a_{i-1} \rho_{i-1} = \rho_i$$

$$a_{i+1} \rho_{i+1} = \rho_{i+2}, \quad \dots$$

スルト $a_1, a_2, \dots, a_i = 1$ カラ $a_i p_i = p_i = 1$ ナリ
 $a_k \dots a_{k+j} \neq 0$ カラ p_j ガスベテ異ナルコトガ分リマ
 ス。ソコデ p_1, p_{i+1}, \dots ハ任意ニトレルノデスシ
 p_1, \dots, p_i ハ全部異ナルノデスカラ p_1, p_{i+1}, \dots フ
 ヲマクトレバ p_1, p_2, \dots, p_n ガスベテ異ナルヤウニスル
 コトガ出来マス。又 $a_1 p_1, a_2 p_2, \dots, a_n p_n$ ハ全体
 トシテハ p_1, p_2, \dots, p_n ト一致スル。 p_1, p_2, \dots, p_n
 フ Element トスル Diagonalmatrix フ P トスレバ
 CP, Eigenwert ハ $a_i p_i$ 即チ P, Eigenwert p_j
 ト一致シ p_1, p_2, \dots, p_n ガスベテ異ナル故 CP ト P トハ
 相似デアル。従ツテ

$$CP = QPQ^{-1}, \quad C = QPQ^{-1}P^{-1}$$

ナル Matrix Q ガ存在スル、コレデ証明ガ出来ヌツケデ
 ス、コソナコトハ恐ラク既ニ知ラレテ居ルコトカト思ツタノ
 デスガ、私ハ今ニデ知ラナカッタノデ証明シテ見タ次第デ
 ス。

コノ事柄ヲ使フト以前學士院記事ニ添表ナレタ中野君ノ
 論文ノ代數的意味ガハッキリシマス。

吾々、Matrix 全部ハ勿論群ヲ作リマス、ソレヲ O_f
 トシマス、 O_f , lineare Darstellung ハ常ニ O_f/L
 ノ Darstellung デス。コソ = L ハ O_f ノ Kommutator-
 gruppe.

上ノ事柄カラ L ハ determinante ガ 1, Matrix

全部ノ群ト一致シマス。故ニ O_f/L ハ O ヲ除イテ Komplexe Zahlen ノナス群ト isomorph デソノ Isomorphismus ハ數ノトソレヲ Determinante トスル Matrix ノ Klasse トヲ對應サセレバ得ラレマス。

從ツテ O_f ノ lineare Darstellungen ノ問題ハ O ナイ複素數ノナス群ノ Darstellungen ノ問題、言ヒカヘレバ

$$f(x) f(y) = f(xy)$$

ナル關係式ヲ満足スル函数 $f(x)$ ヲ決定スル問題ニナリ行列ノ問題ヲ離レルヲケデス。

Determinante ガ 1 ナル Matrix ガ Kommutatorgruppe ヲ作ルコトハ知ラレテ居リマス。ソレハ任意ノ Körper ノ元ヲ分子トスル Matrix ニツイテモ成立シマス。 $n=2$ デ Körper ガ 2 ヲ Element カラナルトキハ例外デス。(van der Waerden, Gruppen von linearen Transformationen 6頁)